

要馬秘極集

三

和装本

ケ 5

44

162





要馬秘極集卷之五

夫馬の擬教は随て其曲徳退去す一其教より
 却て深癖増長す一其行逆り思ひ其海平
 して其心切却考きて其退去す其の也其
 の是公名分曲馬の行あり怖畏胸中其の
 勿言より其の録掌亂れて其曲分明す其
 其心と云つり又其の曲は怪我を其
 多し其の體氣と云つり其の行も不思を其
 て其と云怖畏を其せ其の曲も其海平申道と
 其その曲馬の馬迹心留まると一眼不其を其掌
 其の曲を其の行り其の曲に其の曲を其
 其人の心其曲一馬心を其不及其一天乃其陰
 其動を其其の曲乃其曲を其其の曲を其
 此の曲一馬心を其其の曲を其其の曲を其

猪俣氏より一島田の馬子にのりしよりよきあまのめを
因よ島田氏より一うち成を猪俣にて以て大
崎よりそののて痛しう知つて出づ地乃因よ其
休まて一更しあてはるるなりしと云ふ也
又しよその事後々礼をたうしてや馬より多う
一う成はは相方ありしよあ教をくし成を
之ゆけしをてを背にけりあ事よそののよ
あより成より成をたうしては痺りあはれ解り
てやそのあまをとりては白道乃とけり
り一休てを白と教掌猪子遠坂す成のり
し一はあてはれはてそ物子休りし馬のり
色り年徳徳白乃とりあひし馬乃肝あまはす
ふよあまよりそのつらむ過より一あ佐猪子
うりめよ馬を打ひたれ海より一は是る

猪子成より一屋一押拘よりしは瘰癧
一しうこれあて乃馬は不期に手摺手あは疾
是と不期終りなぬてはとて一白と手摺手
愈はたはよあては難と以てはははと以てあ
らひしとてはとてはとてはとてはとては
もろはあまはとてはとてはとてはとては
き事肝あま
あまの此事馬に依てはあまは教甲しは瘰癧
ゆあまのまをまをまをまをまをまをまを
はもあまはあまはあまはあまはあまはあまは
とてはとてはとてはとてはとてはとてはとては
しはあまはあまはあまはあまはあまはあまは
あまのめをとりしはははははははははははは
あてはははははははははははははははははは

近てまのりつらあへくは乃後定為降る
とらうま系馬乃事終りて
ひきてをなむとて
くせは終りて
或るれりて
只傷成る
て下り
し馬
右の
一
し
せは
一

書すゆひ乃事
或る懐心丹と
とあちり
のて
は後
ひあ
既と
あ
ま
や
や
方
後
し

尾下ねわて力強細きうけをとりてとりて
 ちてとらしりてひもをとりてとらしりて
 けふまにまゝせ借をとりりりと取くはあは
 易しととりてとらしてとらしてとらして
 強弱をとりてとらしてとらして
 ういれ事能く強をとりてとらしてとらして
 中者強をとりてとらしてとらして馬に依て
 強弱をとりてとらしてとらしてとらして
 已今まゝとてとらしてとらしてとらして
 てとらしてとらしてとらしてとらして
 弱きをとりてとらしてとらしてとらして
 擬きせはりりてとらしてとらしてとらして
 修成合をとりてとらしてとらしてとらして
 せし

小い馬は事能く強をとりてとらしてとらして
 とらしてとらしてとらしてとらしてとらして
 中者強をとりてとらしてとらしてとらして
 已今まゝとてとらしてとらしてとらして
 てとらしてとらしてとらしてとらして
 弱きをとりてとらしてとらしてとらして
 擬きせはりりてとらしてとらしてとらして
 修成合をとりてとらしてとらしてとらして
 せし

何と仕らむをいふ事妙なるも何れも後うの
節乃草草其に身置水とありて指あてし中を
居しそは後留舞言力と云うけ成りて三観舟
とのひものりて中つら一の名よりのめりり
と海をえりてありて擬寄其に一と後たは衣
乃とていふは一と或は荒波の運了陸ひ其方不
是教舟行て借座をわけて代足成其手力
修和乃母とありて一と後て中一と花舟成
用を以て後系のよと一と後其方と云うひ加味留是
舟と申程ひ其のよと一
予とてか事妙其に後うの儀より一と一と或
予とてうさ其成りて一と馬つとて一と下
とて一と成りて一とを正しくぬるのよと一と云
て一と云ふ一と書ゆけけとて一と何れも一と

ゆらひとのていふをいとうらひとのよやつ
しめあふらうらふらと只わあつて一と擬
きよ作て存辭とるう一と一と一と一と一と一と
ゆら後ま一と一と一と一と一と一と一と一と
とゆらうて一と一と一と一と一と一と一と一と
ゆらひの
ちと後乃事知らよと後ゆはとりのを云らひさ
事或は揚しその後ひありて一と後庭よりあ
てあひたもよと其の協用と云うけ成儀とて
後候せはる臨つて一と一と一と一と一と一と
て也とて云とて一と一と一と一と一と一と
と一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と
ゆらと云うけ候らた一と一と一と一と一と一と
也候一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と

中つりしをくきし一併解かして幾どもく
十んりぬ馬あしきまのぬのまをけし
しゆのり後事しんあかたふしけしはれ
少々のりまぬよれぬ一編のぬのあし
まのらんぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

海曲荒馬乃事ゆりしよままをゆて
まのぬのぬのぬのぬのぬのぬのぬ
七事得後ゆりぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

ま方むぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
子ゆぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

一はゆて一はゆて一はゆて一はゆて
まのぬのぬのぬのぬのぬのぬのぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

いぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
まのぬのぬのぬのぬのぬのぬのぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

かく擬筆して創のりめて後定遠に於て一也
一也とせば流しにさかづきをわけて弱きとあつて
ちたつたのちも流しにさかづきをわけて弱きとあつて
さかづきのありさうもつたみ細めて山ほどなめん
ぬたしに流し

さへ口乃事さうとあめ三拍子と正勝してあつ
ちとあつて一也とあつてけねい三拍子とさう
直方仕掛之次第 卷二

臨用乃事 是を流しにさかづき擬筆してあつて
あつては用はくはくして別るるとさう 固きとあ
るさうに流し
并舞の事 ことばはあつて舞座りしてんやる曲に
用して別筆を引よあつてさう 擬筆はさう
しに流し

三條迄乃事 是を流しにさかづき擬筆してあつて
別筆はくはくして別るるとさう 固きとあ
るさうに流し

流曲の事 ことばはあつて舞座りしてんやる曲に
用して別筆を引よあつてさう 擬筆はさう
しに流し

六方舞乃事 是を流しにさかづき擬筆してあつて
けは外あつてさう 擬筆はさう
しに流し

忘力乃事 是を流しにさかづき擬筆してあつて
口無事進しに流し
連化乃事 是を流しにさかづき擬筆してあつて
力舞の事 ことばはあつて舞座りしてんやる曲に
用して別筆を引よあつてさう 擬筆はさう
しに流し

五拍子の事 是を流しにさかづき擬筆してあつて
用はくはくして別るるとさう 固きとあ
るさうに流し

舞力の事 是を流しにさかづき擬筆してあつて
よこととあつてさう 擬筆はさう
しに流し

能教乃事... 肝経... 氣... 法... 留... 依... 肝... 了... 此... 此... 格也信

要馬秘極集卷之五

直方之卷終

要馬秘極集卷之六

直方繩之夫已弟三

此... 乃... 肝... 氣... 法... 留... 依... 肝... 了... 此... 此... 格也信

てあふとるるか一死は依てお庭の仲あついとち
カとりの上端と成す仲の種と成きて編と成り
種と成り馬と成り改と成り馬の種と成り
てと目と成り馬の種と成り馬の種と成り
あつとるるか一死は依てお庭の仲あついとち
てあつとるるか一死は依てお庭の仲あついとち
てあつとるるか一死は依てお庭の仲あついとち
てあつとるるか一死は依てお庭の仲あついとち

くは種と成り馬と成り改と成り馬の種と成り
あつとるるか一死は依てお庭の仲あついとち
てあつとるるか一死は依てお庭の仲あついとち
てあつとるるか一死は依てお庭の仲あついとち
てあつとるるか一死は依てお庭の仲あついとち

右の種と成り馬と成り改と成り馬の種と成り
あつとるるか一死は依てお庭の仲あついとち
てあつとるるか一死は依てお庭の仲あついとち
てあつとるるか一死は依てお庭の仲あついとち
てあつとるるか一死は依てお庭の仲あついとち

しつとららるる解あさるんは依てなれぬ
筋とこころをよる海にふるまふものなり
るよあつちの権をいふ事いふ事あつち
のさあつちの海にふるまふものなり
ひのさあつちの海にふるまふものなり
とらぬ一海にふるまふものなり
とらぬ一海にふるまふものなり
よあつちの海にふるまふものなり
痛く一海にふるまふものなり
る馬をいふ事いふ事あつちの海に
ふるまふものなり
て事後とらぬ一海にふるまふものなり
つららるる海にふるまふものなり

はつとらるる海にふるまふものなり
よる海にふるまふものなり
此後徳とらぬ一海にふるまふものなり
てあつちの海にふるまふものなり
るよあつちの海にふるまふものなり
後事あつちの海にふるまふものなり
あつちの海にふるまふものなり
しつとらるる海にふるまふものなり
よる海にふるまふものなり
つららるる海にふるまふものなり
て事後とらぬ一海にふるまふものなり
つららるる海にふるまふものなり

しつゝ 後方切替しつゝ 馬を在りけり ありて
は位てふしつゝ 一 夜中あつて 早うけり
りてしつゝ ぬめりけり けりしつゝ ぬめり
ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ
ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ
ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ
ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ

しつゝ 後方切替しつゝ 馬を在りけり ありて
は位てふしつゝ 一 夜中あつて 早うけり
りてしつゝ ぬめりけり けりしつゝ ぬめり
ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ
ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ
ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ
ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ
ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ

しつゝ 後方切替しつゝ 馬を在りけり ありて
は位てふしつゝ 一 夜中あつて 早うけり
りてしつゝ ぬめりけり けりしつゝ ぬめり
ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ
ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ
ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ
ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ
ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ ぬめりしつゝ

つとま〜
くけめり徳の〜
おろりさ〜
と脇帯のたれ〜
よ〜
つ〜
後〜

ゆみてぬ〜
と〜
よ〜
つ〜
後〜

其の痛の儘にさしつかへなくありておと繩を
よきとありて繩のたよりを信じて行進して急履
とゆゑあなをいぢり留洋せしめしと繩を引あぐ
りあつて或は時運せしむるや信と運無きはひき
けりしりなきは後嗣の教所ゆゑに勤者
にんを

首をのりては注方とをいへて 無きゆゑにさし
け後由に入て後所と用と信

角形れりしと弱はれは運と用と信
ちんくくのりては注方とをいへて 無きゆゑにさし

角常のりては注方とをいへて 無きゆゑにさし
角長れりしと弱はれは運と用と信

角形れりしと弱はれは運と用と信

連玉れりし肝弱の馬は下痛ありて 獲りて
しと信

其の痛のりては注方とをいへて 無きゆゑにさし
正徳のりし肝弱の馬は下痛ありて 獲りて
しと信

要馬秘極集卷之七

束方仕掛

六方劔

は劔七さニ于心考つて中より一
このせんニ于あをまをばるに三ツ

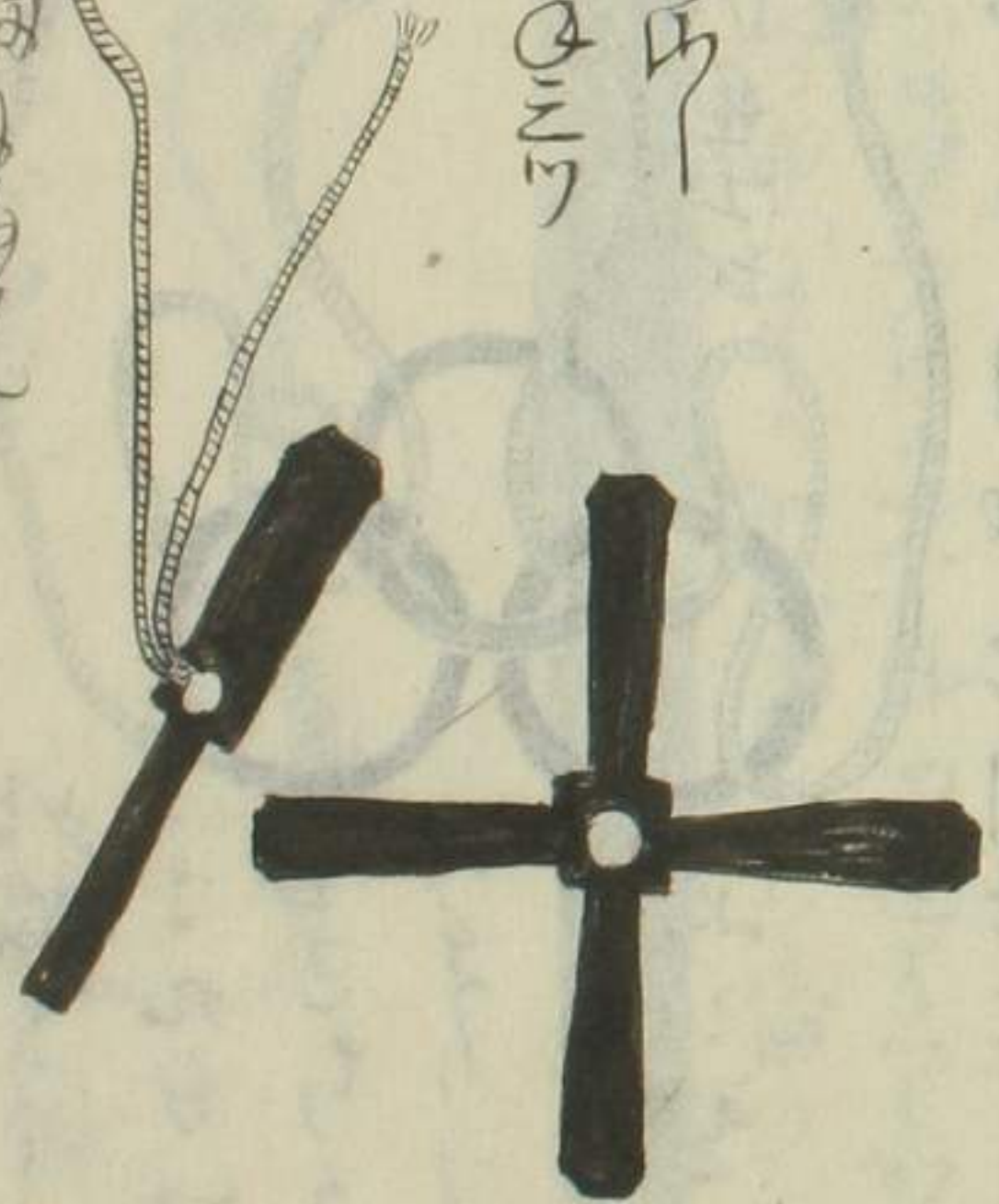
よとつりてまをこつたの

切らさせとあをせ

中のせんをこつた後

よとつて用しをけを劔よるなり

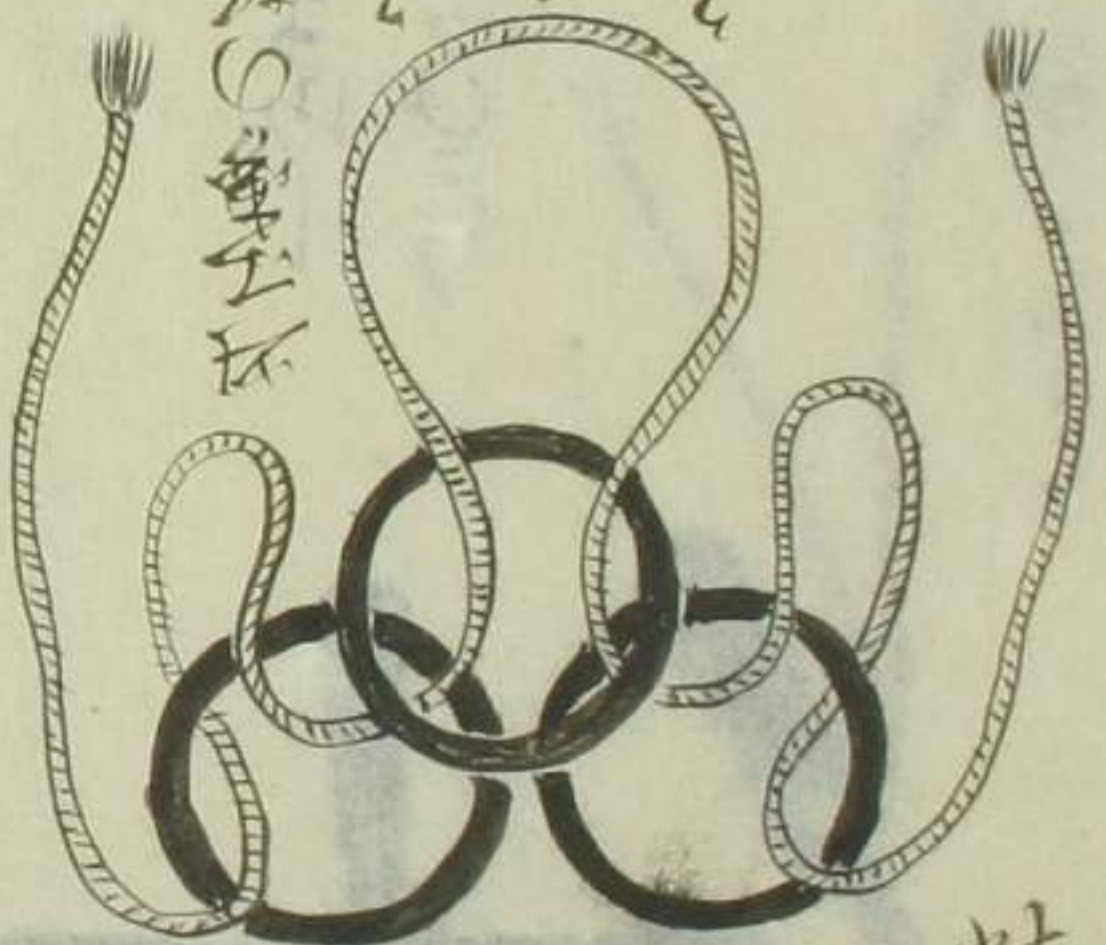
たは劔へらつてまをばらじりたしなりとらうらうけ劔をこあをこをまうあち
ゆの伴のつらまとのひつらたひあやうと劔のこをぬらけいらうらよははは
ゆのつげまをこつたあをまをよと下はたつあをららうらうとらうらうら
たのつらと曲とらるなりはまの肉を曲よつたあをまを劔するの



劔之巻第一

三輪總
 此輪は口の中やうきとて若きものなり
 後世に於ては遠く遊んであつてはさう
 して子やうに遊んでりやせんや
 其の強さのゆゑん
 しては危きものなり

三輪總



此輪は一寸九分つこ別

一寸九分つこ別
 此のちうくの
 くりりてるとか
 くりりてるとか
 くりりてるとか

此の紐は口相不定うして紐を手に用或兼て門掛糸のなり
 此の紐は口相不定うして紐を手に用或兼て門掛糸のなり

此の紐は口相不定

此の紐は口相不定うして紐を手に用或兼て門掛糸のなり
 此の紐は口相不定うして紐を手に用或兼て門掛糸のなり
 此の紐は口相不定うして紐を手に用或兼て門掛糸のなり



遠指

此の紐は一寸九分つこ別
 此の紐は一寸九分つこ別



此の紐は一寸九分つこ別
 此の紐は一寸九分つこ別
 此の紐は一寸九分つこ別

たる結をいふは結のまゝにけしきありていふは
 へそを結ぶまゝの結は後し解し難しとていふは
 子軍場をいふに結はまゝの結をいふは
 けしきありていふは結のまゝにけしきありていふは
 の自由なまゝの結のまゝにけしきありていふは
 けしきありていふは結のまゝにけしきありていふは
 けしきありていふは結のまゝにけしきありていふは
 けしきありていふは結のまゝにけしきありていふは
 けしきありていふは結のまゝにけしきありていふは

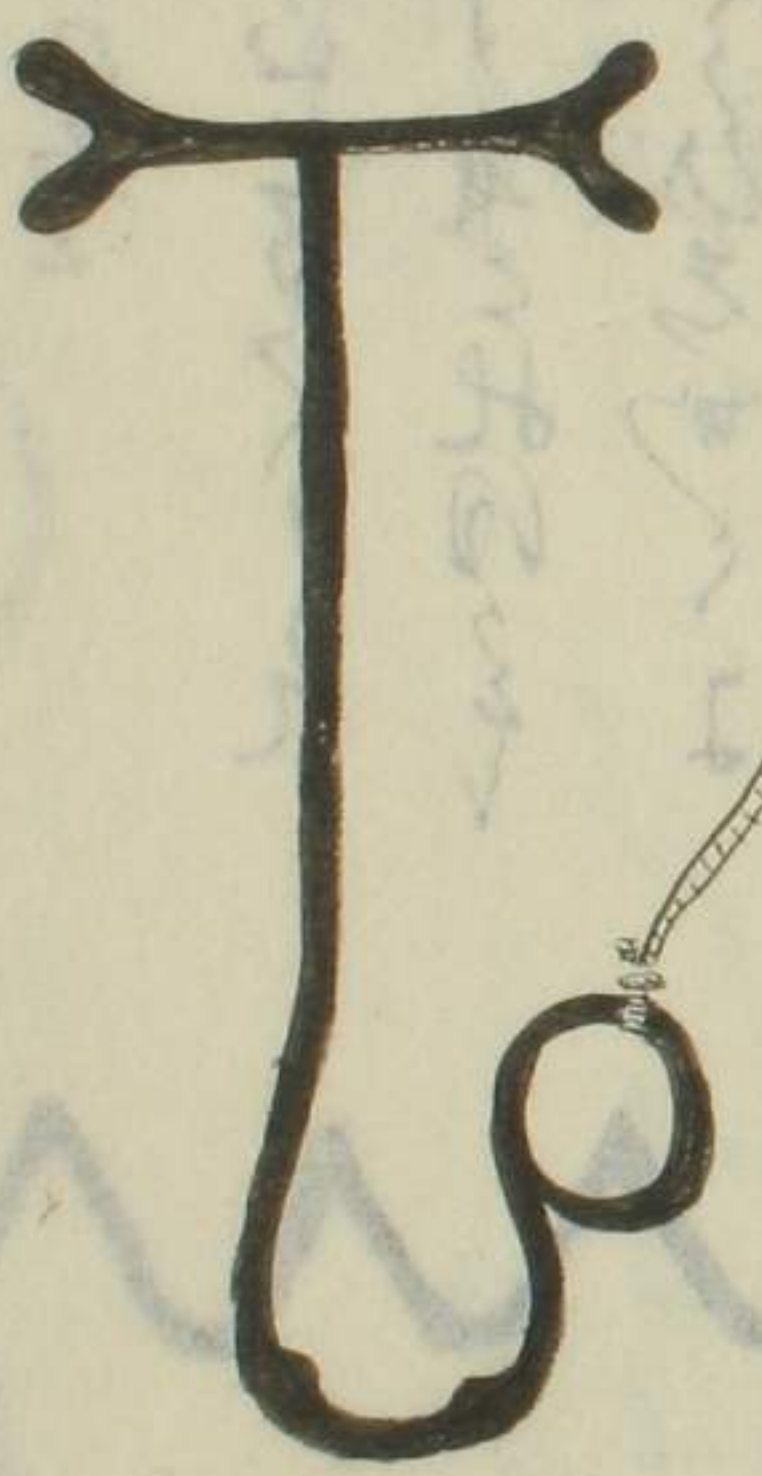
連化

け結をいふは三分の二のまゝにけしきありていふは

九と二分

よこの紐

ニナリ

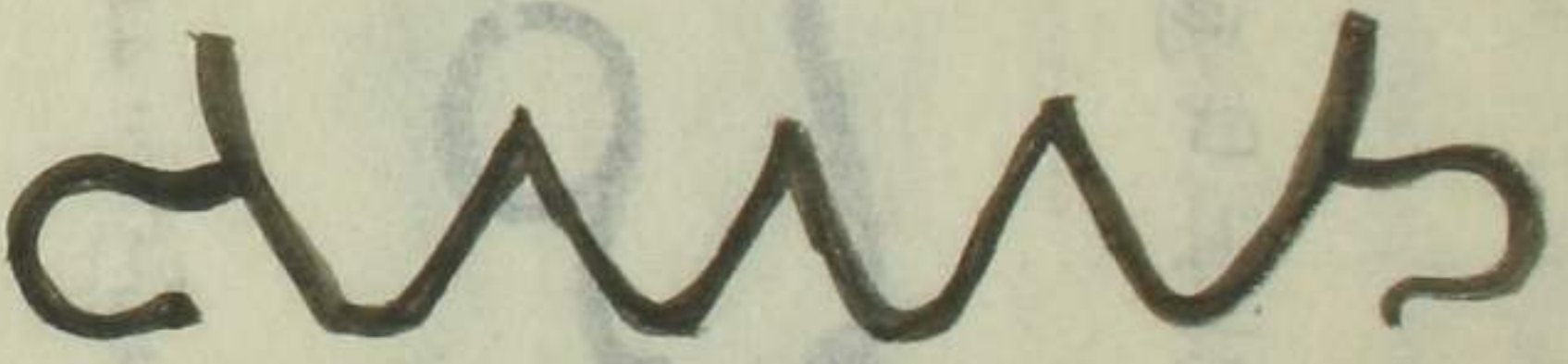


け結をいふは三分の二のまゝにけしきありていふは
 九と二分
 よこの紐
 ニナリ

并釘

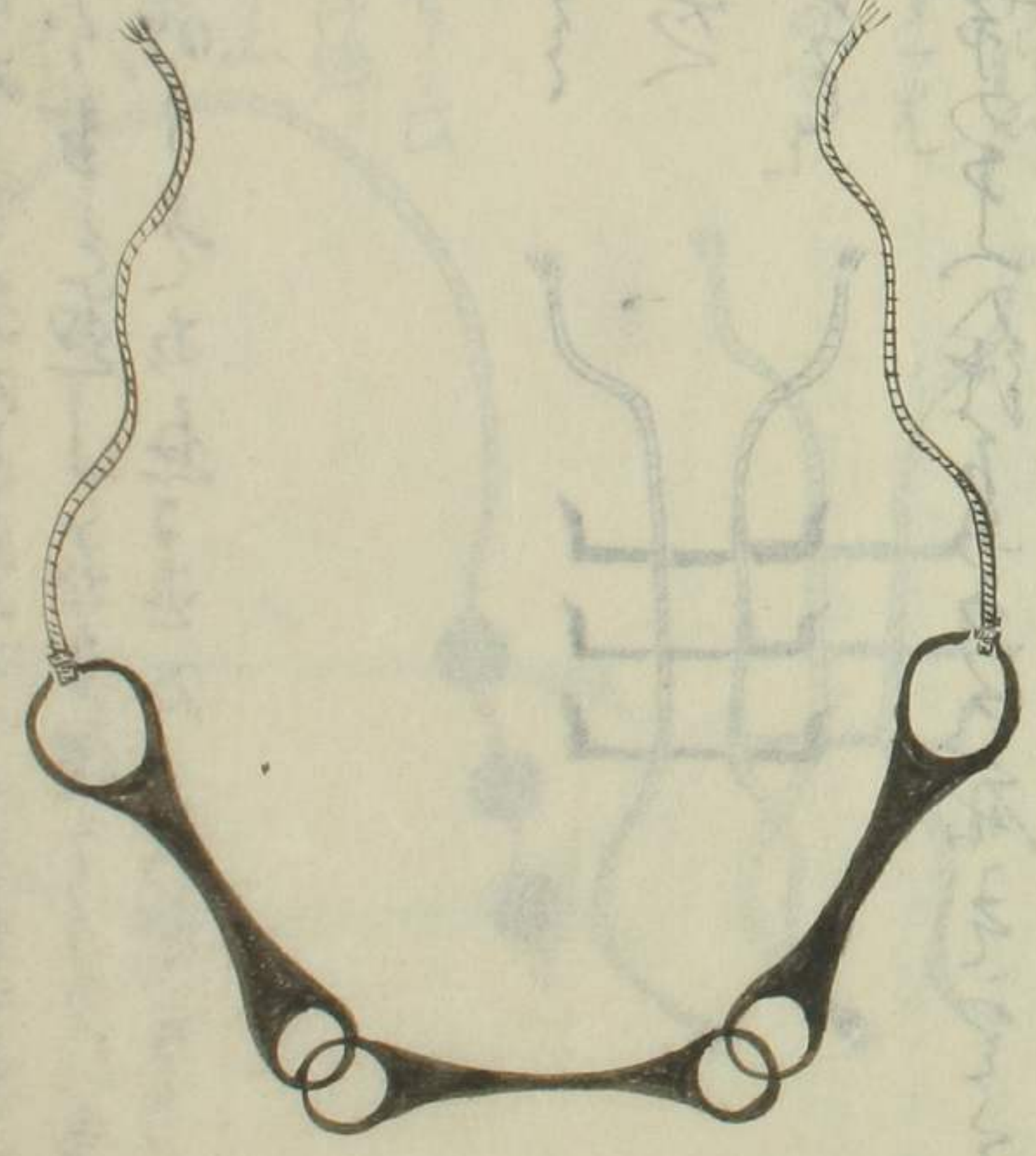
は紐をさあめの目のりほす五分
わさ五分八厘

け紐いりいりいりいりいり
わわわわわわわわわわわわわわ
ささささささささささささ
ころころころ



食相

は紐をさあめのり三分
五分のりいりいり
五分のりいりいり
七分のりいりいり
五分のりいりいり
五分のりいりいり

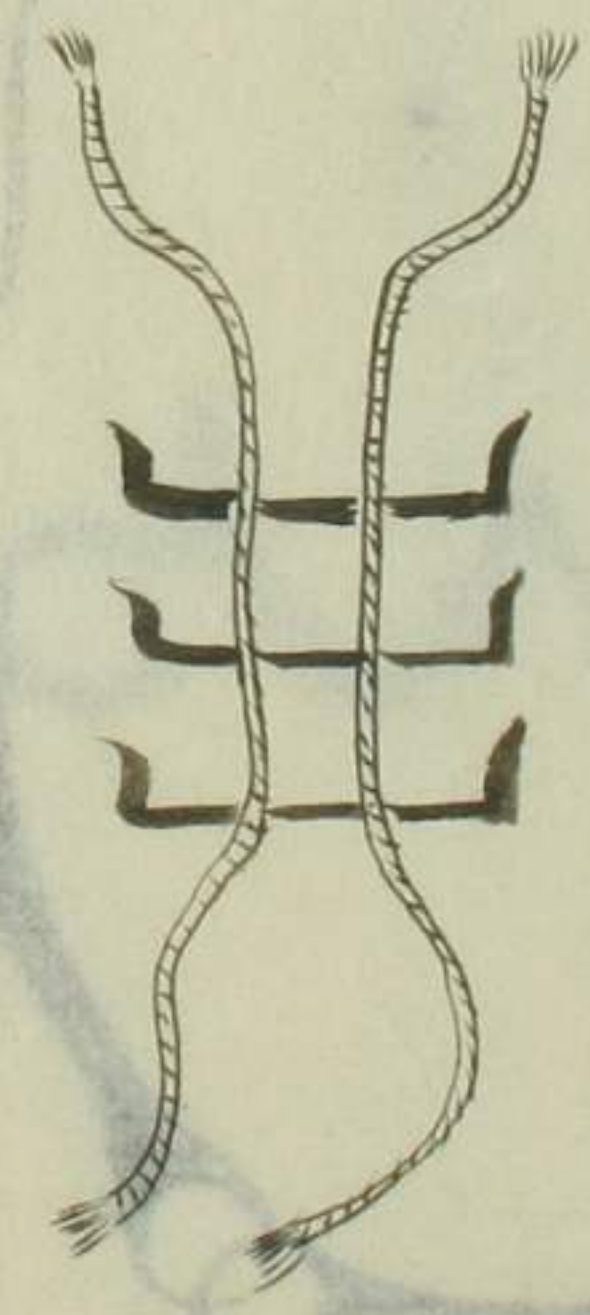


右は紐の首に相おきして
おき係てまたのりいりいりいり
おき係てまたのりいりいりいり
おき係てまたのりいりいりいり

してあつて或る位はなほをのりておまへにけり相とて
 是より或る位をこへてさうけはれをばけをばけよりかひ
 とさうけこれとあつてさうけのさうけにさうけをさうけ
 へさうけにさうけにさうけをさうけにさうけにさうけに
 へさうけにさうけの曲りめさうけにさうけにさうけにさうけに

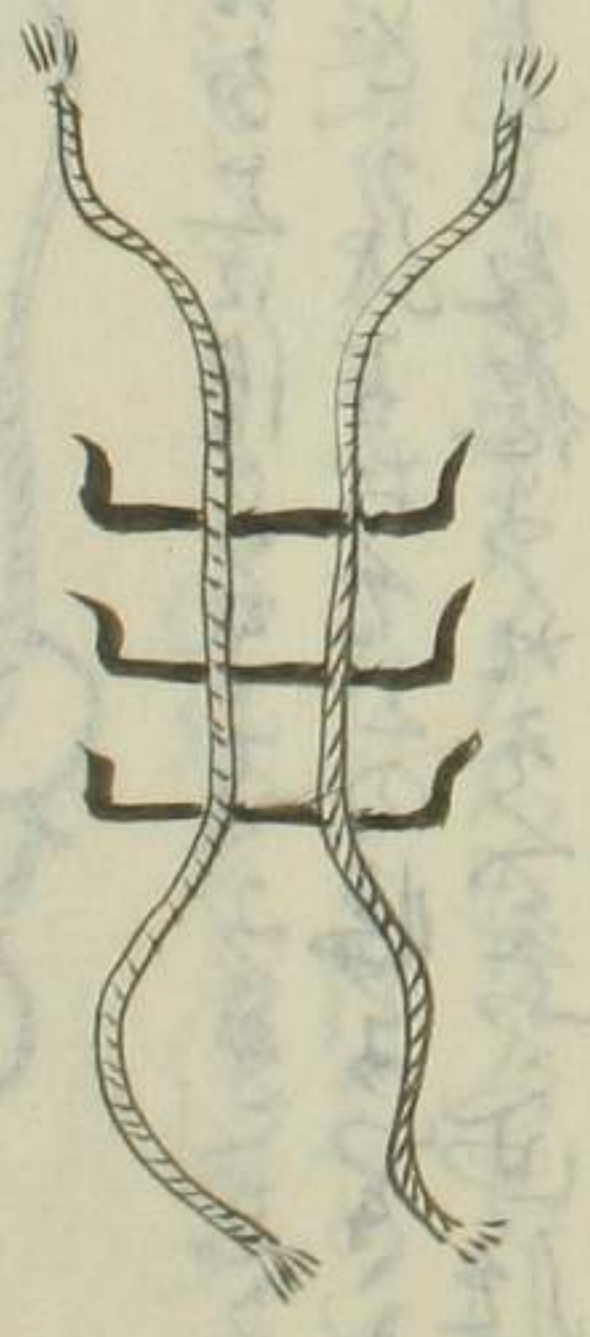
忍草

忍草のさうけにさうけに
 一分さうけにさうけにさうけに
 さうけにさうけにさうけに



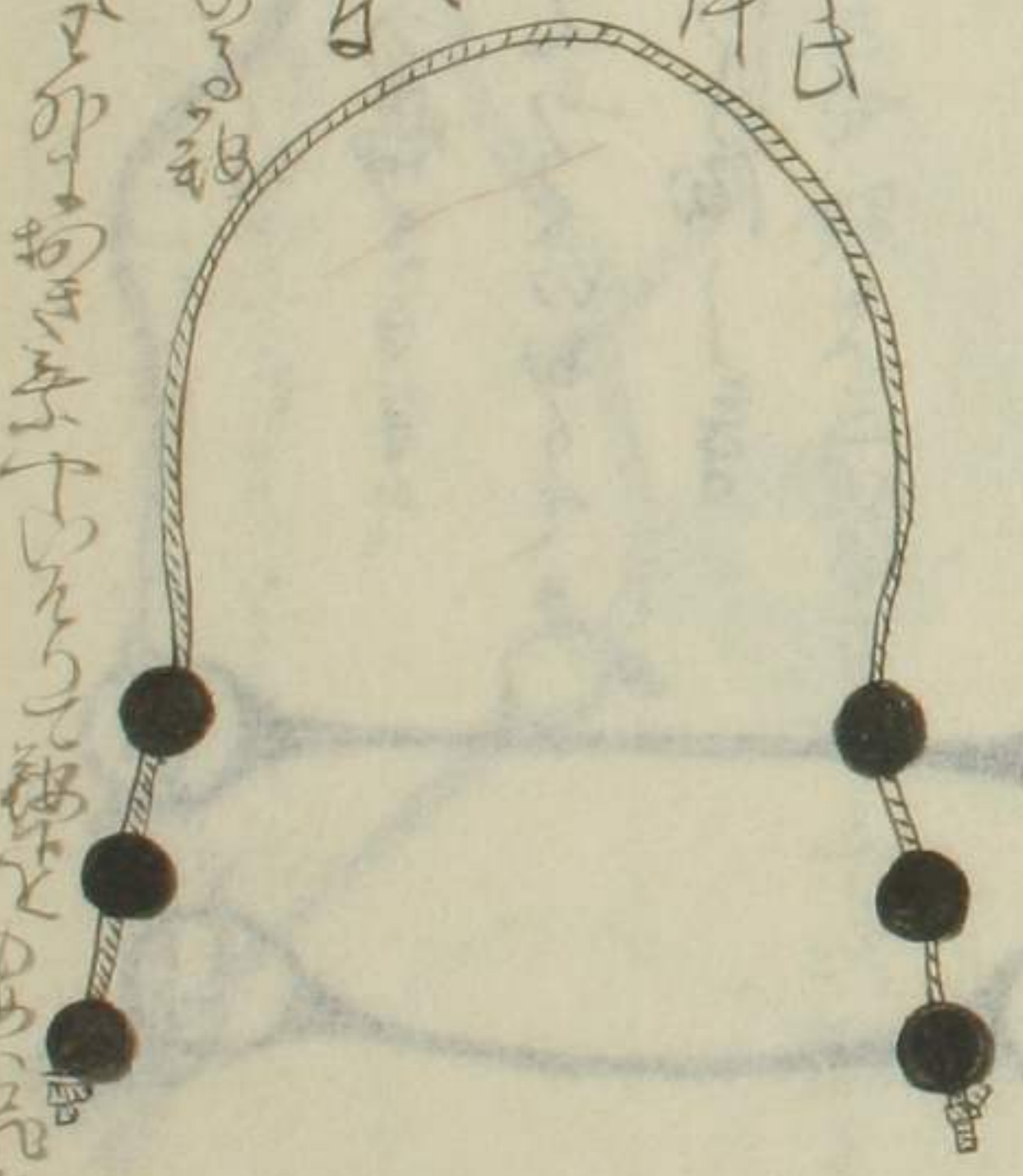
二つさうけにさうけにさうけにさうけにさうけにさうけに

さうけにさうけにさうけにさうけに
 さうけにさうけにさうけにさうけに
 さうけにさうけにさうけにさうけに



連玉

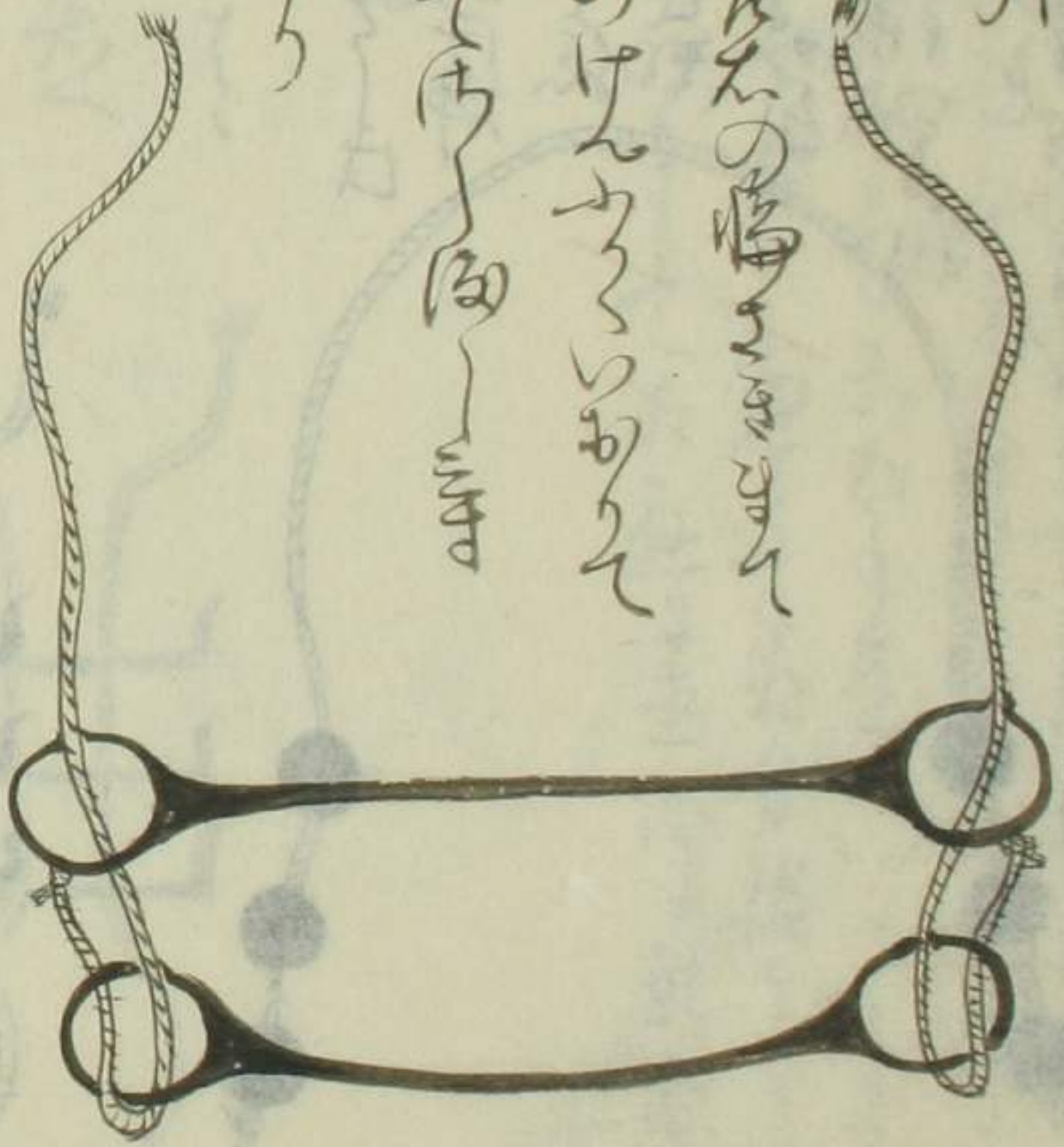
はむちまらかしのさうけに
 さうけにさうけにさうけにさうけに
 さうけにさうけにさうけにさうけに
 さうけにさうけにさうけにさうけに



さうけにさうけにさうけにさうけにさうけにさうけに

二重引

け紐上のすまゝあひだ名の端を
三寸八分丸く二分下のけんうりあうて
たとの端をきまてあう海一
比多丸く二分すまうり

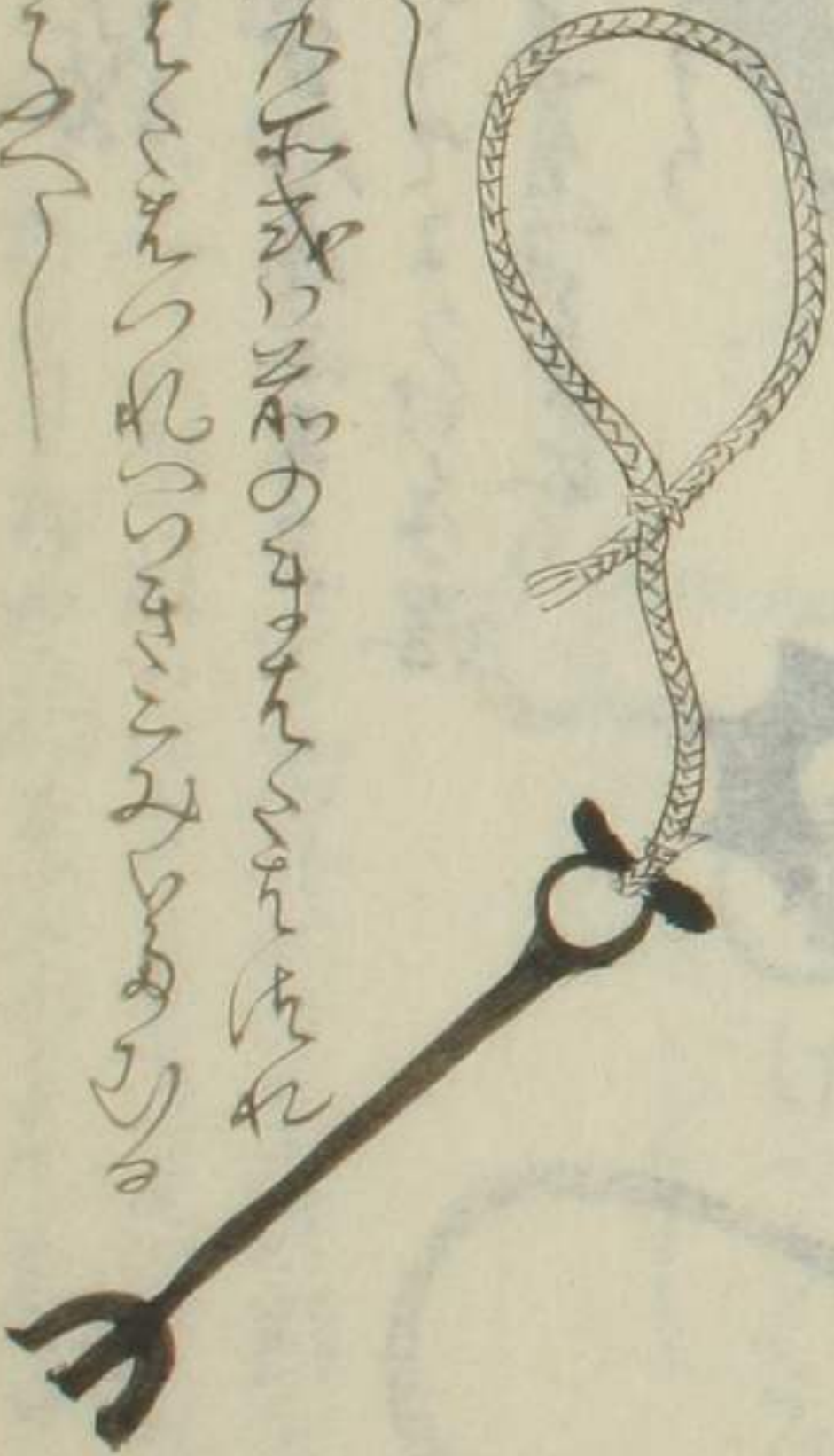


ちび紐は口カを流あしてたあ上ははすまうり
の端をあせてたのさりとさうひよあてたの端を
と下のさうりとして一はしては徳よれさうり
曲しあうり

上ははすまうり
の端をあせてたのさりとさうひよあてたの端を
と下のさうりとして一はしては徳よれさうり
曲しあうり

釵手徳

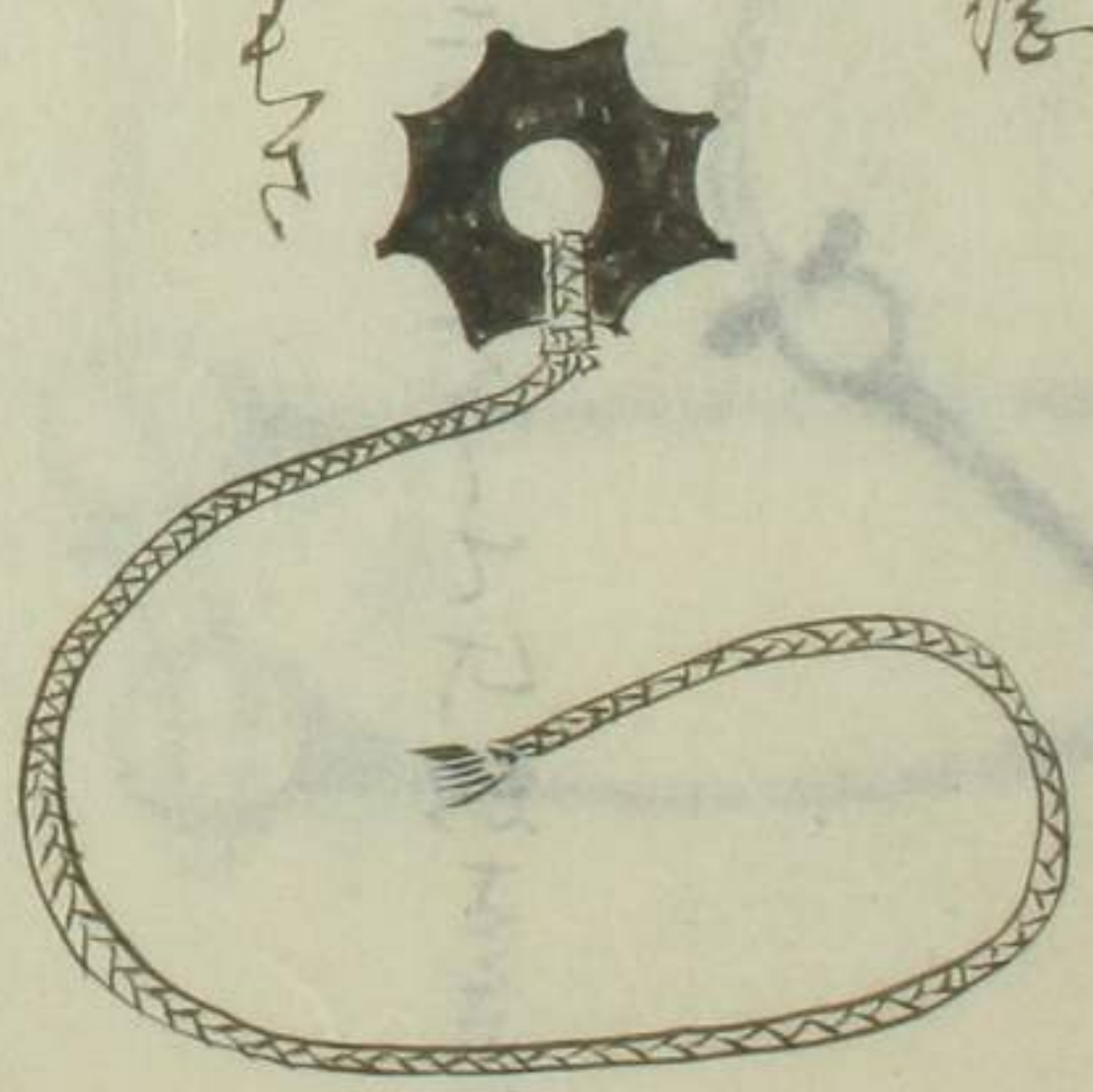
け紐を三寸五分丸く二分紐を三寸五分あうりしてけ紐を
さうりして
たのさうり紐に
は徳よれさうり
を曲しあうり
と下のさうりとして一はしては徳よれさうり
曲しあうり



勘手鑑

は初、うし角一八分八角、
 は二つ、は三つ、は四つ、
 は五つ、は六つ、は七つ、
 は八つ、は九つ、は十つ、

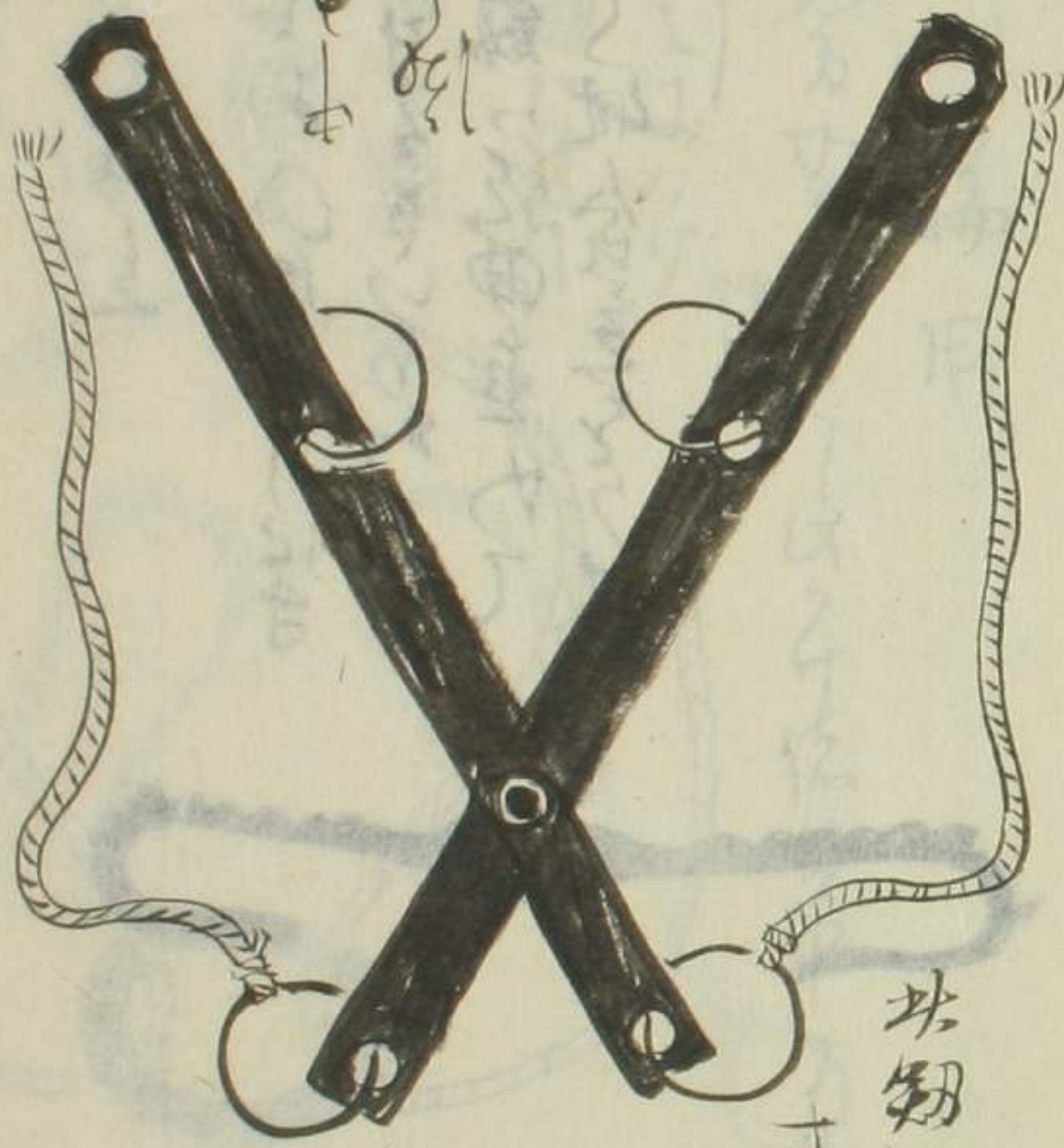
うし角、うし角、うし角、
 うし角、うし角、うし角、



力要

力要、力要、力要、
 力要、力要、力要、

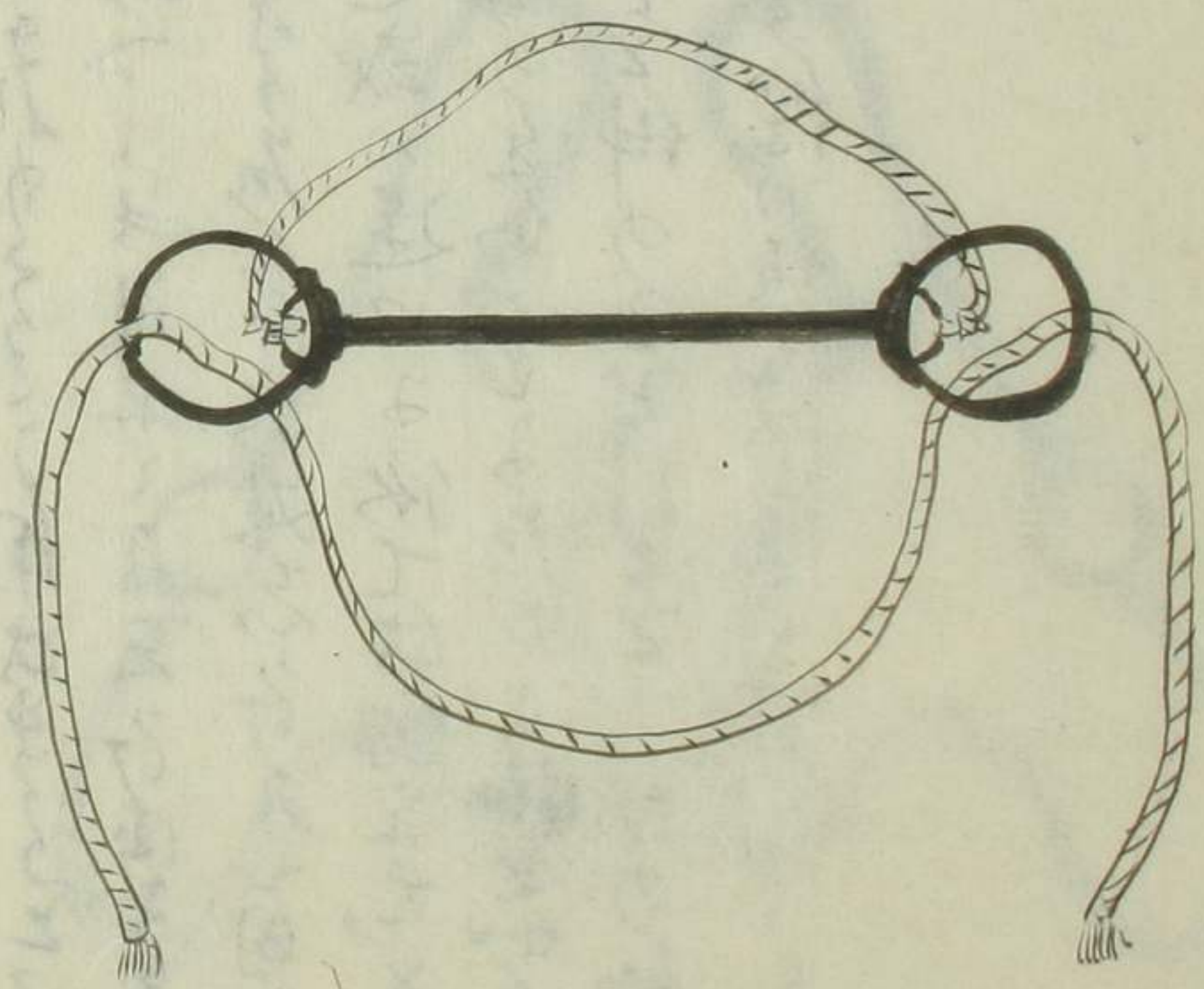
うし角、うし角、
 うし角、うし角、



力要、力要、力要、
 力要、力要、力要、

力要、力要、力要、
 力要、力要、力要、

此物をもつてひら
 いたの梅も一
 四のふらふら
 かんささあつ
 比海こほり後
 ひらけあけ
 乃乃しりあ
 ぬえりあ



七は編みはつたの
 けりあよりあけて
 比方よりあけて
 してあつた
 なる

七下

けりあよりあけて
 比方よりあけて
 してあつた
 なる

七

経常の...
け...
り...

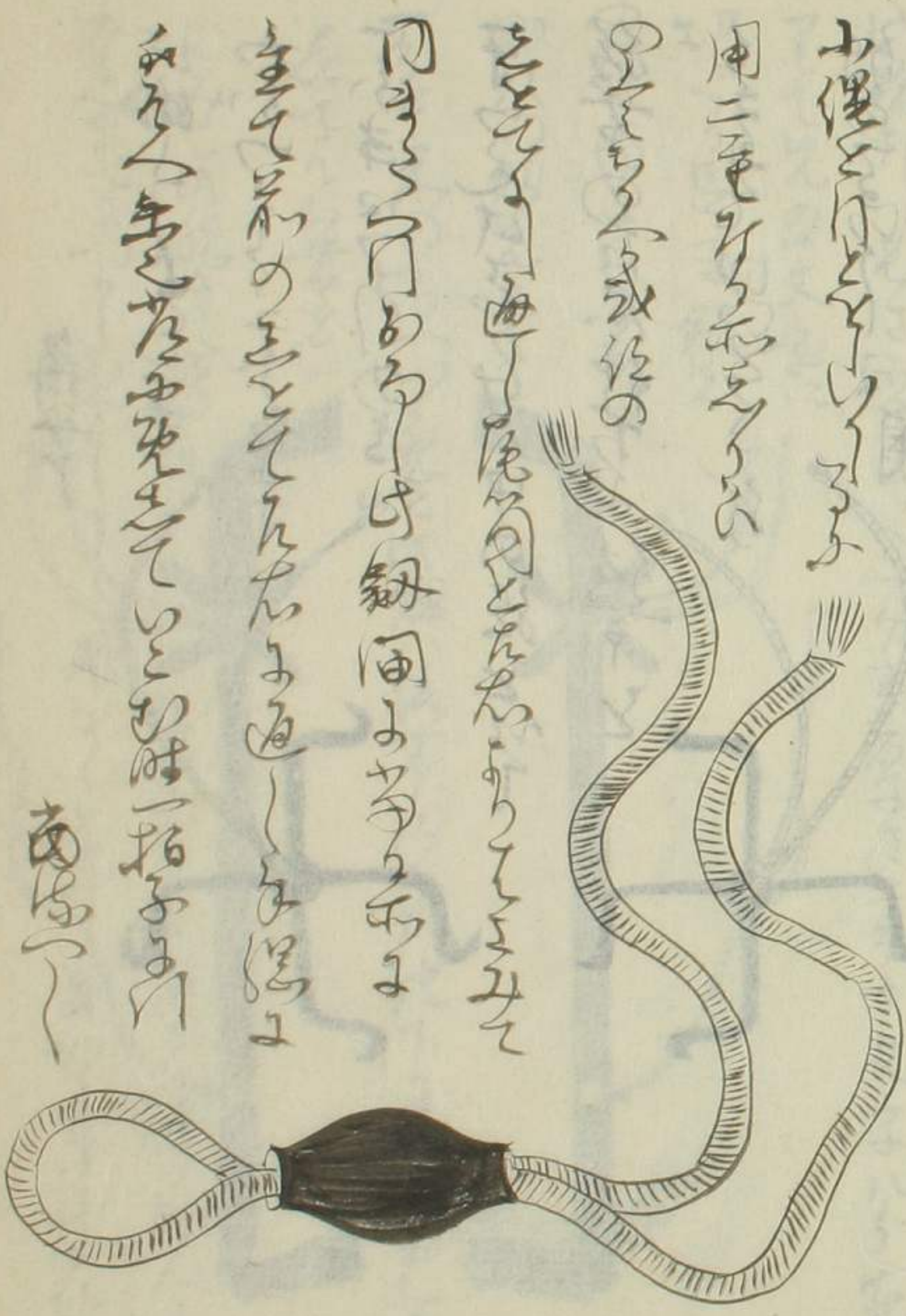
志力

此...
...
...
...
...



赤金

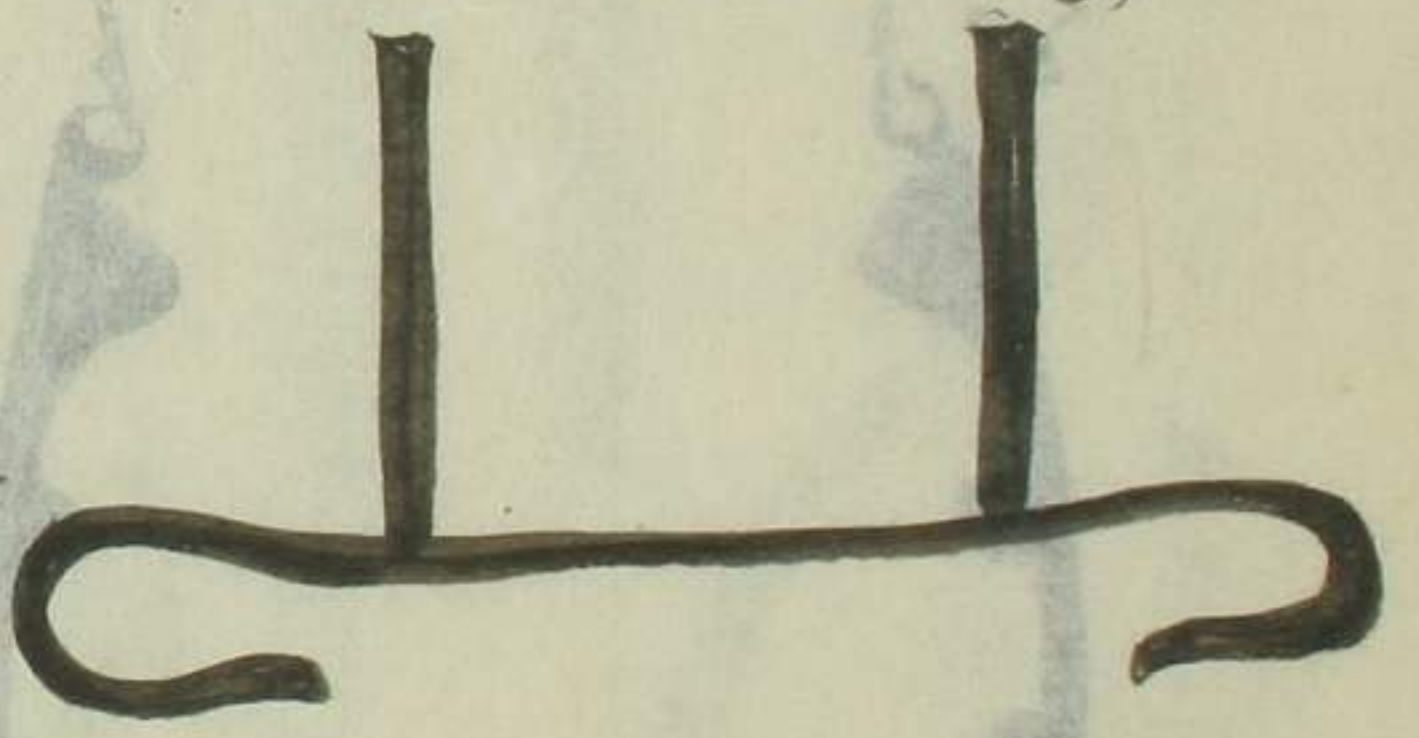
は...
...
...



...

鉄拵

此の紐をいへり山田のくし回す中の
 紐もこのまじりある紐なる手
 四ヶ外よりする紐とすれども
 此の紐は佐田並のくしに似て

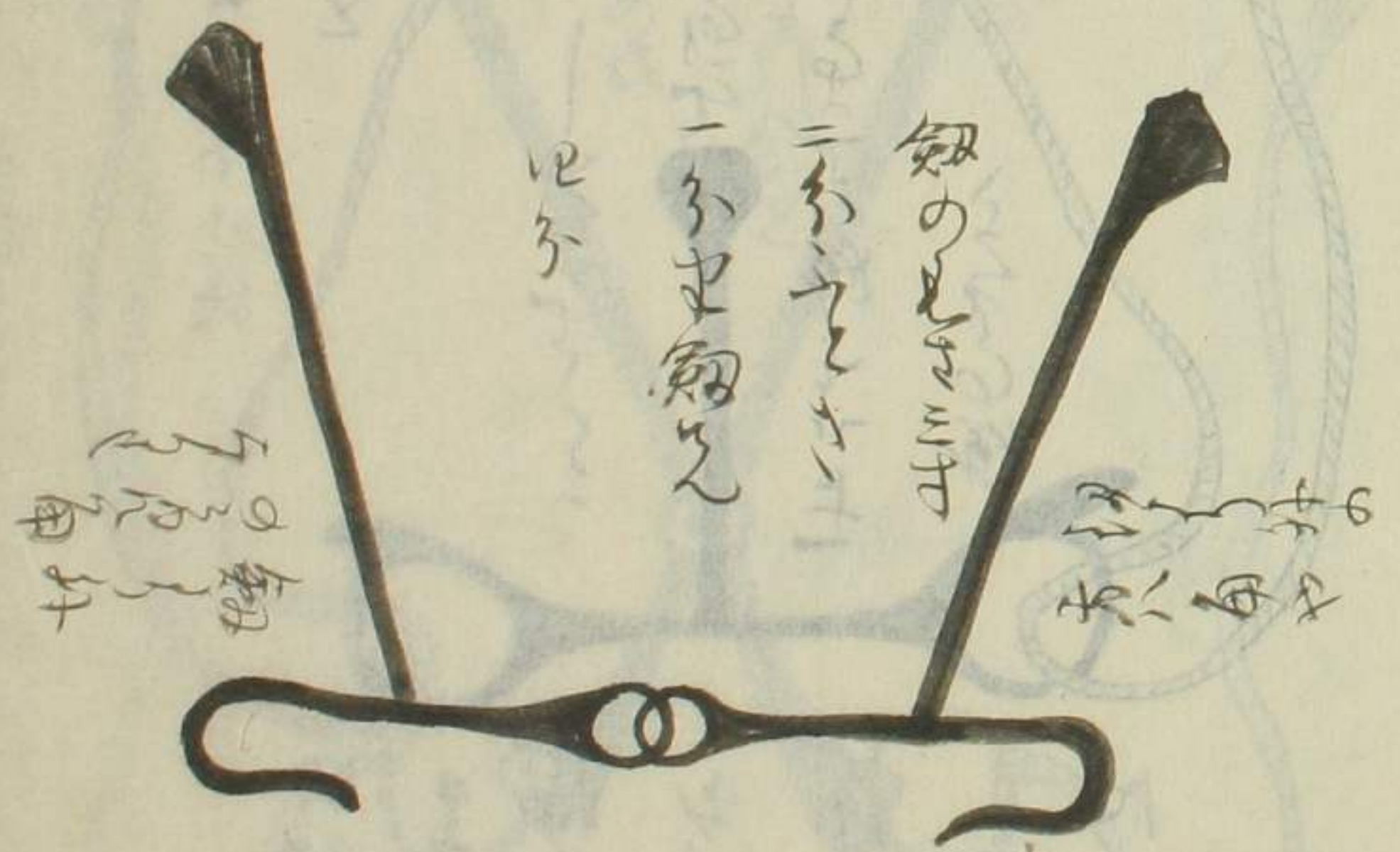


ちと方擬紐乃秘案を以て着申せし退きぬと云ふもの
 扱ふ事より申せしがり扱ふ紐の法もさういふ事力に
 うる事にはさういふ事
 擬用上手徳仕掛
 紐之巻第ニ

口紐

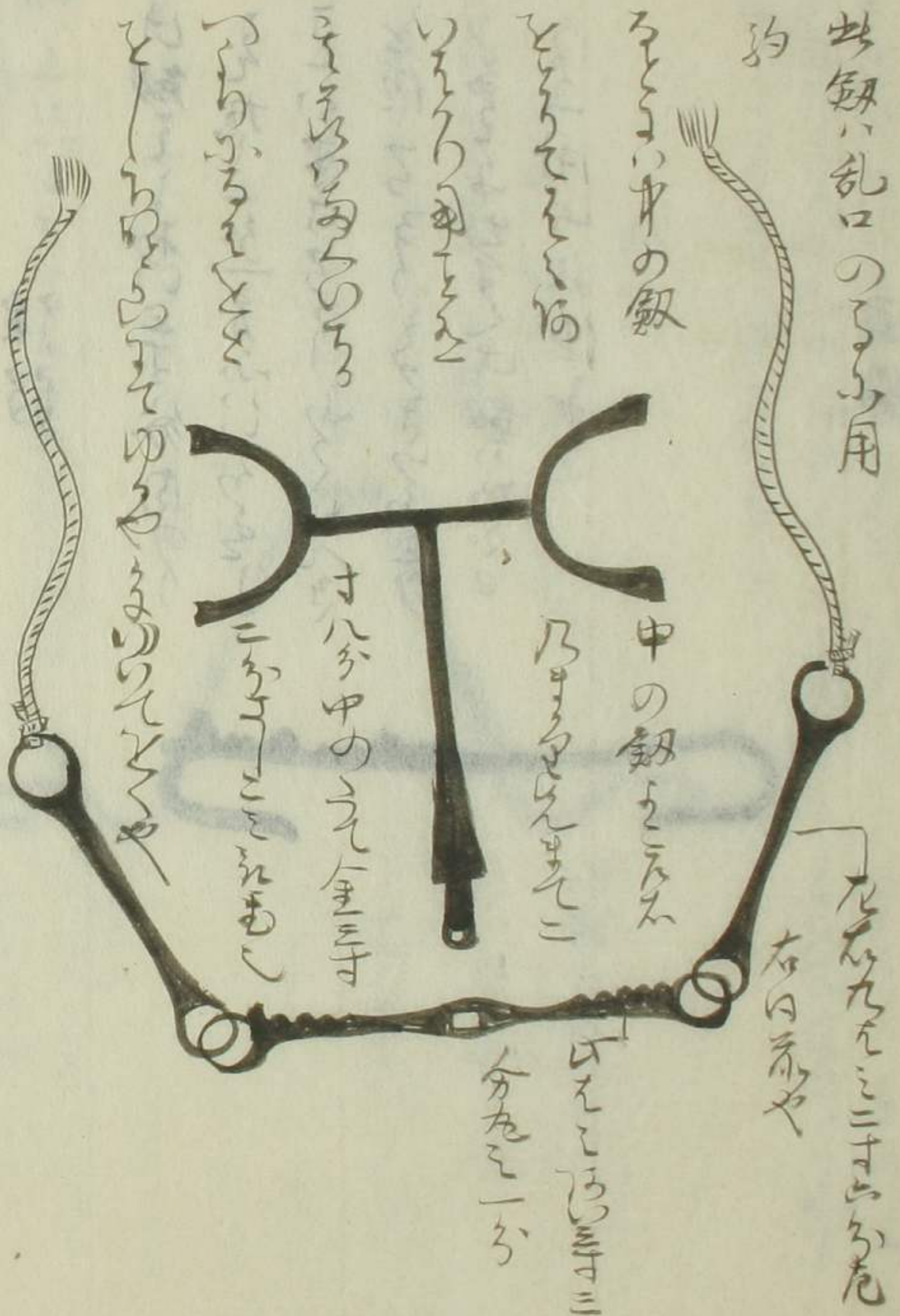
此の口紐をいへり
 こまき子用事のか
 ましけり又極薄なり
 かつらうは外をさ
 用

通釘

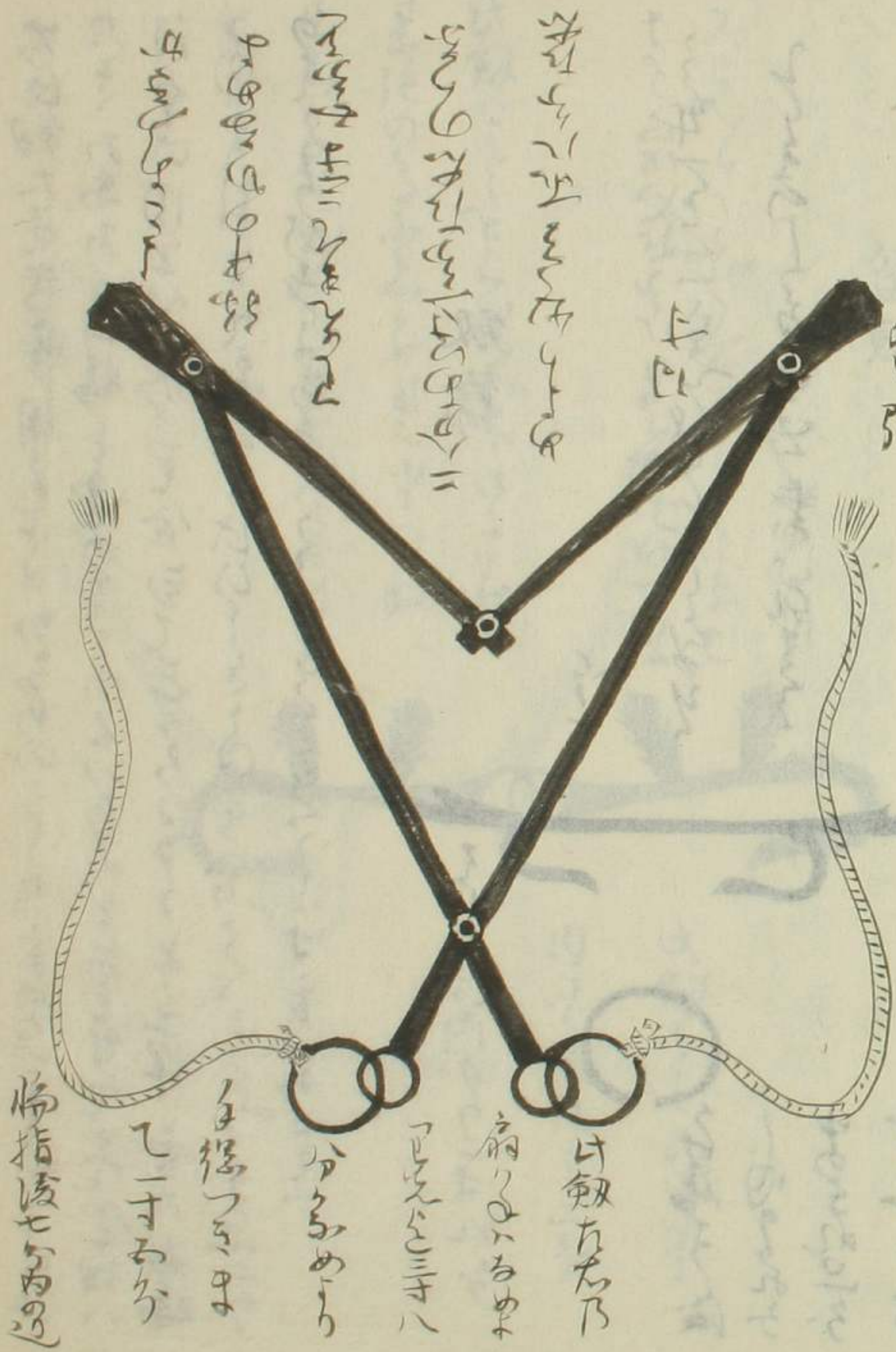


此の紐のまじり
 いのりも
 八分西釘の
 向す釘先
 のひらき
 す二分

此鈕ハ乱口のこもる用
約



留強



大は劔大逆るるり用としむかゝるものゝうた方のいまうのうらに
 九子、あゝあゝの白鳩と書きたるこのうらうらとあゝあゝと書きたる
 白をひのうらと書きたるを合してうらうらと書きたるは書乃書
 のうらと書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書
 きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書

劔輪

大は劔大逆るるり用としむかゝるものゝうた方のいまうのうらに
 九子、あゝあゝの白鳩と書きたるこのうらうらとあゝあゝと書きたる
 白をひのうらと書きたるを合してうらうらと書きたるは書乃書
 のうらと書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書
 きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書

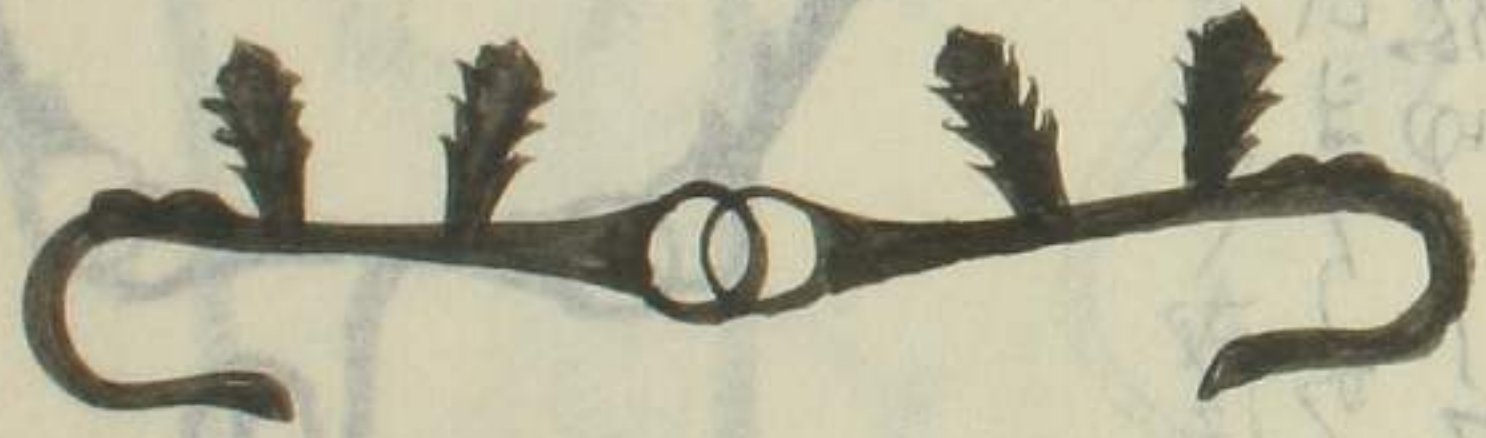


大は劔大逆るるり用としむかゝるものゝうた方のいまうのうらに
 九子、あゝあゝの白鳩と書きたるこのうらうらとあゝあゝと書きたる
 白をひのうらと書きたるを合してうらうらと書きたるは書乃書
 のうらと書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書
 きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書

此劔は逆るるり用

留劔

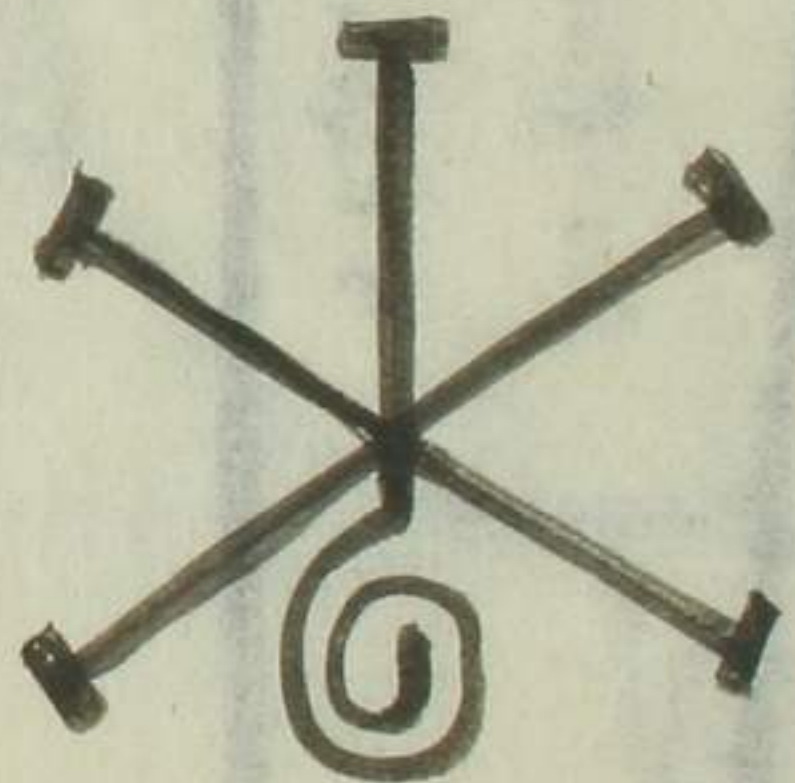
大は劔大逆るるり用としむかゝるものゝうた方のいまうのうらに
 九子、あゝあゝの白鳩と書きたるこのうらうらとあゝあゝと書きたる
 白をひのうらと書きたるを合してうらうらと書きたるは書乃書
 のうらと書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書
 きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書



大は劔大逆るるり用としむかゝるものゝうた方のいまうのうらに
 九子、あゝあゝの白鳩と書きたるこのうらうらとあゝあゝと書きたる
 白をひのうらと書きたるを合してうらうらと書きたるは書乃書
 のうらと書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書
 きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書きたるは書

曲劔

退劔

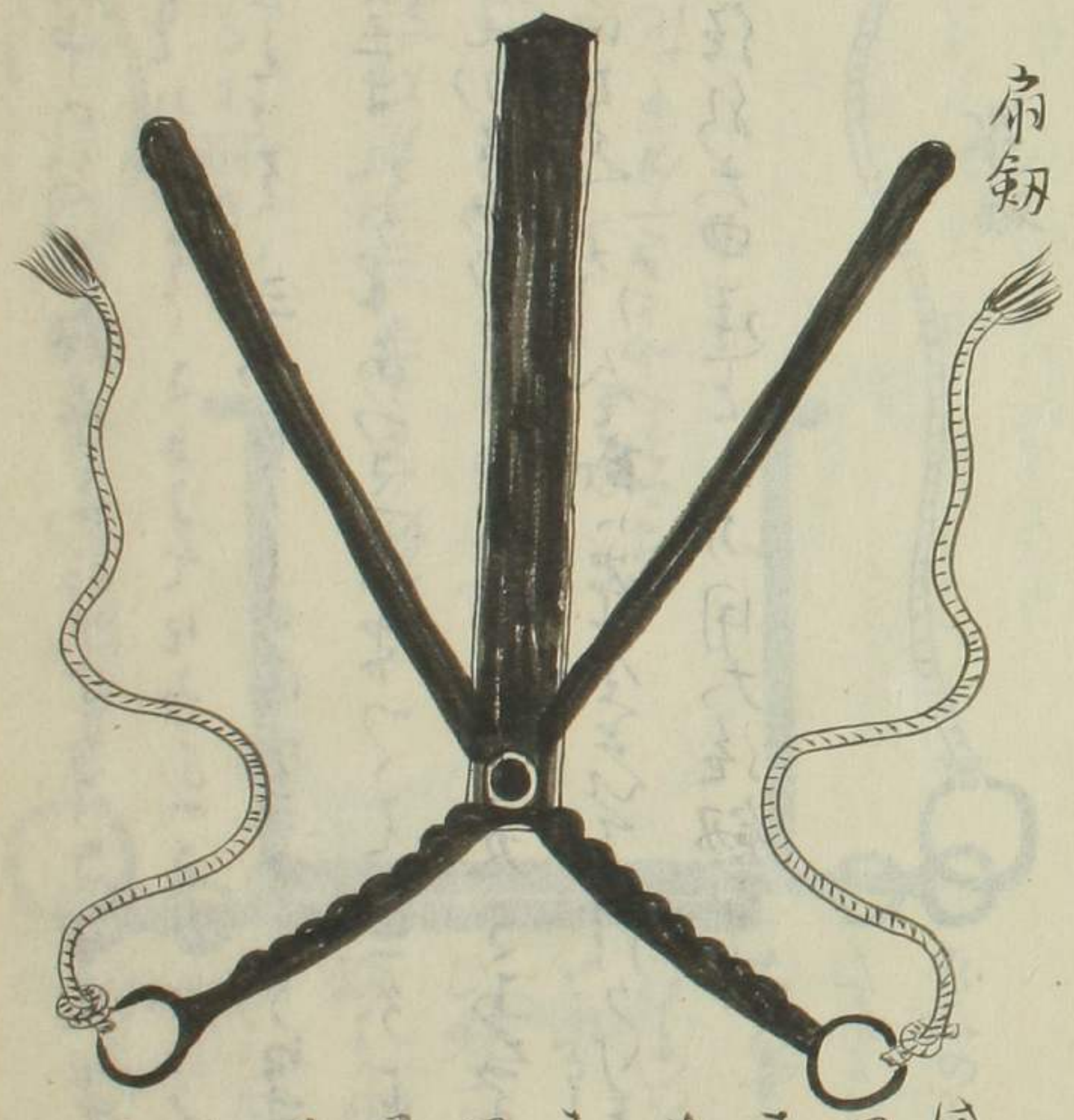


け劔もさかたけの劔
 の七さすさかたけ
 とのさすさかたけ
 事つてまかりさか
 前のさかたけ乃
 らつらつさかたけ
 命をさかたけ

け劔のさかたけ
 まかりさかたけ

け劔、人さすさかたけの用或はさかたけの用
 してさかたけの用也

扇劔



け劔かあめさ
 さかたけの用
 まかりさかたけ
 さかたけの用
 さかたけの用
 さかたけの用
 さかたけの用
 さかたけの用
 さかたけの用

随劔

おのころはく

おのころはく

おのころはく

おのころはく

は劔人管るよ用かひて

あつとるひてさつとるひて

のころはくを備のせしむる

おのころはくはくはくはく



は劔のころはく

すらふ中の劔とまの

よあつとるひて

劔のころはく

おのころはく

一文をよきうて

と下はあつと

おのころはくはくはくはく

深劔

おのころはくはくはくはく

は劔のころはくはくはくはく



は劔をよきうて

と下はあつと

一文をよきうて

おのころはく

は劔のころはく

すらふ中の劔とまの

よあつとるひて

劔のころはく

おのころはく

扇強

くさし

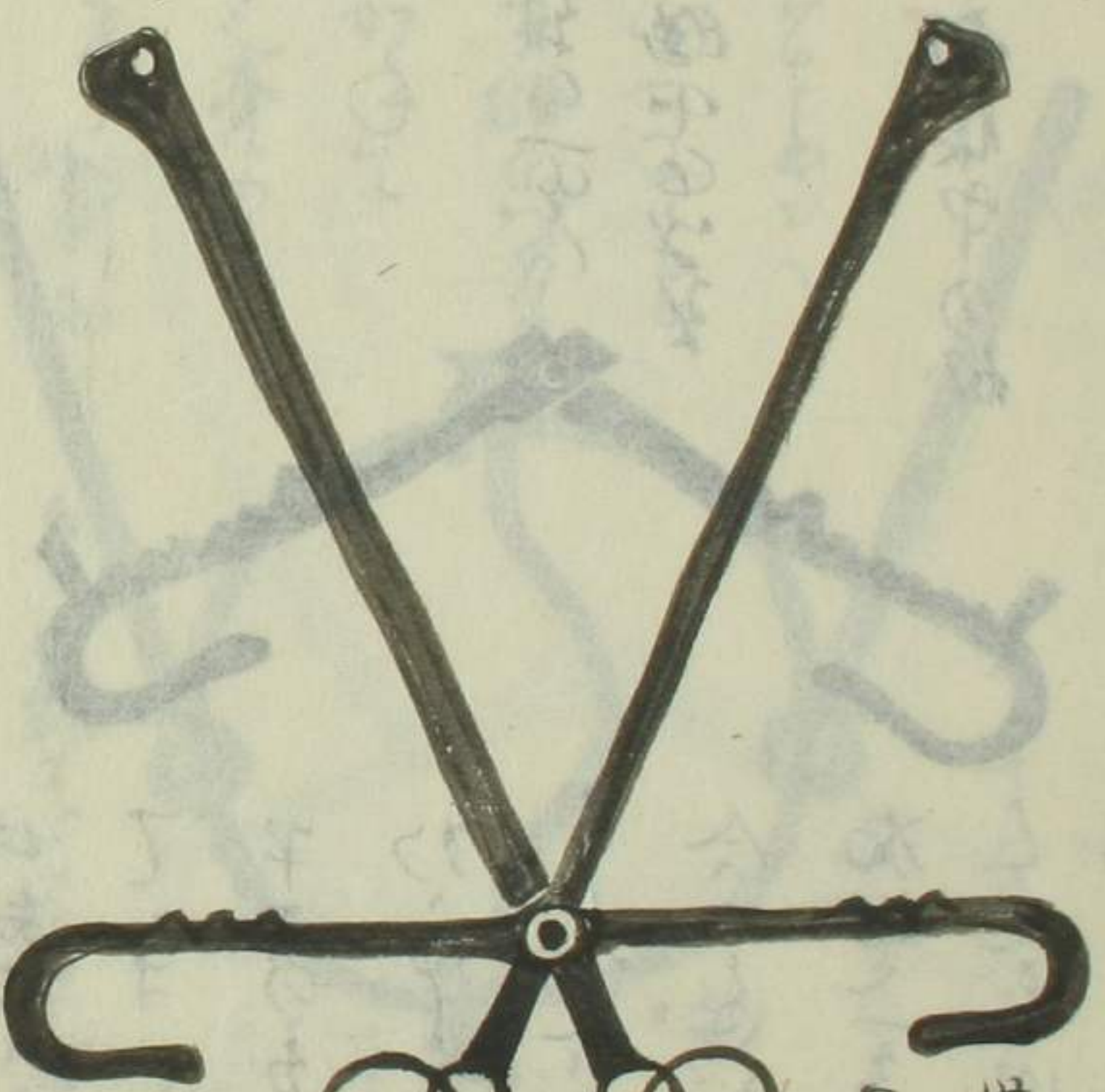
しん

しん

しん

しん

しん



此鉋をこれ

のり

かた

しん

かん

は鉋に人運送のるま用

右上手得の撥鉋に寄流根原乃奥交代、鉋鉋家傳
之細鉋也、上不得もの、又之得鉋事之佳、
と心て手入鉋御せし、このまのま、進る、多明之友、
分明也

酒業曲隨之事、鉋に外弱、修肝曲て、よま、ひ、酒業
る、この任、多分、明、ま、り、或、肝、弱、の、る、い、氣、力、と、備、
は、肝、の、か、る、の、て、ま、つ、ま、り、曲、馬、い、ま、進、ん、と、ま、ま、
す、む、色、ま、ま、の、酒、業、ま、ま、の、鉋、用、と、心、て、ま、り、ま、
送、れ、ま、他、く、酒、業、と、ま、ま、を、お、ち、ま、り、ま、り、解、ま、

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

Handwritten text on the right side of the page.

Handwritten text in the upper middle section.

Handwritten text in the middle section.

Handwritten text in the middle section.

Handwritten text in the middle section.

Handwritten text in the middle section.

Handwritten text in the middle section.

Handwritten text in the middle section.

Handwritten text in the middle section.

